

令和 5 年(2023 年)病原体ウイルス分離・検出結果

奈良県保健研究センター ウイルス・疫学情報担当

奈良県感染症発生動向調査事業実施要綱および要領に従い、病原体定点対象疾患である、インフルエンザ、感染性胃腸炎、無菌性髄膜炎等について病原体検出を実施し、本県における流行疫学情報を収集している。

新型コロナウイルス感染症の行政検査の影響により、病原体サーベイランス検査は個別の相談があった事例以外は、令和 2 年 2 月以降停止となっていた。令和 4 年から平常の病原体サーベイランス検査が再開となったが、令和 5 年においても、検体の提出数は新型コロナウイルス流行以前に比べ依然として下回っていた。令和 5 年に奈良県感染症発生動向調査事業として提出された検体は、咽頭ぬぐい液 111 件、糞便 14 件、髄液 7 件および血清・他 24 件（総計 156 件）であった。病原体の検出法として、培養細胞によるウイルス検出は、RD-A、HEp-2、A549 の 3 種の細胞、インフルエンザウイルスについては MDCK 細胞に接種を行い、細胞変性が見られたものを陽性とした。その後、中和試験等の生物学的試験法を用い分離ウイルスの型識別を行った。また、ウイルス遺伝子の検出については、各病原体検出マニュアルに準じて、(RT-) PCR 法、リアルタイム PCR 法およびダイレクトシーケンス法等を用いて行った。

1) 【臨床材料別・月別】(表 1-1~4)

- a) 咽頭ぬぐい液からは、血清型の異なる 12 種類のウイルスを合計 94 件検出した。インフルエンザは、AH1pdm09、AH3、B (ビクトリア系統) の 3 種類を検出した。その他呼吸器系ウイルスでは、RS ウイルス、ヒトメタニューモウイルス、アデノウイルス 3 型を検出した。エンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A 群 2 型、9 型と B 群 5 型を検出した。その他、ヒトヘルペスウイルス 6、7 と EB ウイルスを検出した。(表 1-1)
- b) 糞便からは、血清型の異なる 3 種類のウイルスを合計 4 件検出した。検出したウイルスは、エンテロウイルスでは、コクサッキーウイルス A 群 2 型と B 群 5 型を検出した。その他、アデノウイルス 3 型を検出した。(表 1-2)
- c) 髄液からは、コクサッキーウイルス B 群 5 型を検出した。(表 1-3)
- d) 血清・他からは、2 種類のウイルスを合計 3 件検出した。検出したウイルスは、単純ヘルペスウイルス 1 型とコクサッキーウイルス B 群 5 型を検出した。(表 1-4)

2) 【臨床診断別・月別】ウイルス分離・検出状況(表 2-1~6)

- a) インフルエンザ：令和 5 年中に採取した検体の指定提出医療機関からの提出は 71 件(1 件疑い含む)あった。そのうち、インフルエンザウイルス AH1pdm09 が 23

- 件、AH3 が 42 件、B（ビクトリア系統）が 1 件を検出した。（表 2-1）
- b) ヘルパンギーナ：本疾患からは、コクサッキーウイルス A 群 2 型を検出した。（表 2-2）
 - c) 手足口病：本疾患からは、ヒトヘルペスウイルス 6 を検出した。なお、臨床症状として、発熱、水疱、発疹（丘疹）等の症状がある患者からの検出であった。（表 2-3）
 - d) 感染性胃腸炎：本疾患からは、アデノウイルス 3 型を検出した。なお、臨床診断名としてアデノウイルス咽頭炎の診断もあり、臨床症状としては上気道炎（咽頭炎）や呼吸器症状等のある患者からの検体であった。（表 2-4）
 - e) 無菌性髄膜炎：本疾患からは、コクサッキーウイルス B 群 5 型を検出した。（表 2-5）
 - f) 咽頭結膜熱：本疾患からは、アデノウイルス 3 型を検出した。（表 2-6）

令和 4 年 8 月から病原体サーベイランス検査が再開となり、令和 5 年にかけて検体提出数は昨年より増加していた。しかし、新型コロナウイルス感染症流行以前の 2019 年から比べると大幅に減少しており、検出ウイルスの詳細な解析には至ることができなかった。依然として、新型コロナウイルス感染症の影響等によって、感染症の発生動向や関連する指標への影響が生じている可能性がある。そのため、今後もサーベイランスを継続し、データの蓄積及び解析に努めたいと考える。

感染症発生動向調査事業で得られた詳細なデータは、今後の発生動向が注目される新型インフルエンザ、無菌性髄膜炎や数年の間隔で大流行を繰り返す感染性胃腸炎・手足口病等、疾患の流行予測において正確性の向上に資するものと考えています。

最後に、検体の提供にご協力をいただきました病原体定点医療機関の先生方に厚く御礼申し上げます。

ウイルス分離・検出状況: 令和5年(2023年)【臨床材料別・採取月別】

表1-1 咽頭ぬぐい液

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
		インフルエンザ	AH1pdm09										6	
	AH3	3	8	9	1	1				1	6	8	5	42
	B・V										1			1
コクサッキーA群	2					2								2
	9											1		1
コクサッキーB群	5							1						1
ヒトヘルペス	6											1		1
	7					1								1
アデノ	3										11	5	2	18
ヒトメタニューモ											1			1
EB					2									2
RS					1									1
合計		3	8	9	4	4		1		1	25	25	14	94

表1-2 糞便

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
		アデノ	3										1	
コクサッキーA群	2							1						1
コクサッキーB群	5							2						2
合計								3			1			4

表1-3 髄液

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
		コクサッキーB群	5							2				
合計								2						2

表1-4 血清・他

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
		単純ヘルペス	1						1					
コクサッキーB群	5							2						2
合計							1	2						3

ウイルス分離・検出状況：令和5年(2023年)【臨床診断別・採取月別】

表2-1 インフルエンザ様疾患

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
インフルエンザ	AH1pdm										6	10	7	23
	AH3	3	8	9	1	1				1	6	8	5	42
	B・V										1			1
合計		3	8	9	1	1				1	13	18	12	66

表2-2 ヘルパンギーナ

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
コクサッキーA群	2					1								1
合計						1								1

表2-3 手足口病

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ヒトヘルペス	6											1		1
合計												1		1

表2-4 感染性胃腸炎 ※アデノウイルス咽頭炎併発

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
アデノ	3										2			2
合計											2			2

表2-5 無菌性髄膜炎

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
コクサッキーB群	5							1						1
合計								1						1

表2-6 咽頭結膜熱

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
アデノ	3										7	4	1	12
合計											7	4	1	12